

2022  
2月号

まことの  
保育

- 巻頭言  
島田妙子  
「素直な気持ちを伝えあえる社会に」
- 教区だより  
第6ブロックのまことの保育大学講座・  
第47回九州地区保育研修鹿児島大会 報告
- とじこみ  
保育連盟教材申込書



浄土真宗本願寺派 保育連盟

✉ hoiku@hongwanji.or.jp



# こどもの心



つげはるな  
**津下遥南**

光輪幼稚園 年長組担任  
(東京教区)

私は、この光輪幼稚園で幼少期を過ごしました。保育者になろうと決め、実習に来た際には、当時と変わらない温かな先生方や、園舎やお寺に懐かしさと安心を感じました。

働き始めてからは覚えることも多く、子どもたちとの関わりも教科書通りにはいかず、あらためて保育の難しさを実感しました。

補助として、いろいろなクラスに入りましたが、先輩方の保育を見ながら真似をしてみても、自分だと上

手くいかないことも多く、どのような保育を行ったら子どもたちの心を動かすことができるのか、ただひたすら頭で考え、焦り悩んでいました。

そこで、一番クラスの子どもたちと深く関わりのある担任の先生方に、それぞれの子の仲の良い友だちや、興味のあるものについて聞いてみました。話の中から、クラス全体を見つつ、子どもたち一人一人の気持ちに寄り添った保育を行うことの大切さについて学びました。

それからは理解を深めるために、毎日できるだけその日に入ったクラスの子全員と、話をするように心がけました。すると、次第に焦りも消え、その子の気持ちを考えながら保育を行うことができるようになっていきました。「この子は新幹線の話が好きなんだ。お支度は苦手だけど、新幹線の速さと競争するよう声をかけてみよう」など日々試行錯誤しながら関わっていききました。気持ちが通じ合った時はとても嬉しく感じて、自信につながっていききました。

また、ある時には、「私も子どもになってみよう」と思い、一度大人であることを忘れ、子どもの目線に立ち、全力で遊んでみることにしました。すると、子どもたちも少しずつ心を開いてくれるようになり、何より私自身が「保育って楽しい!」と感じるようになっていきました。

今は4年目となり、5歳児の担任をしています。勉強の日々ですが、保育室では笑いが絶えず、毎日が本当に楽しく、このような状況下でも子どもたちと過



すことのできる日常に幸せを感じています。

先輩方から学んだ、子ども一人一人に寄り添う保育を、これからも自信を持って行っていききたいと思えます。また、私がこの園に戻ってきて感じたように、子どもたちにとっても、温かく安心感を得られる場所と なってほしいです。

## ●いま、学ぶ、越える ～新任先生の奮闘記～